

2021 年度第 1 回情報教育研究委員会データサイエンス分科会議事概要

I. 日 時：令和 4 年 1 月 26 日（水）15：00～17：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：渡辺主査、松尾委員、今泉委員、西川委員、大原アドバイザー、辻アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. 大学における数理・データサイエンス・AI 教育支援プラットフォームに掲載した関連情報の確認。

（1）数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）モデルカリキュラムについて

- ・ 学修目標は、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AI を活用し課題解決につなげる基礎能力を修得すること。そして、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AI を応用するための大局的な視点を獲得することになっている。
- ・ エンジニアリングを意図しているようだが、先を見据えたところが不足しているように感じ、技能を求めている印象が強い。
- ・ 応用としての特長を出すことが難しいのか、企業と連携して実データを使うカリキュラムが望ましいとしている。

（2）教育プログラム認定制度の認定結果の確認

- ・ リテラシーレベルとリテラシーレベルプラスの教育プログラムが認定されており、今後は、応用基礎レベルの募集が予定されている。
- ・ 課題としては、実際のビジネスに活かせるのかが問題ではないか。
- ・ 経団連では、大学に望む教育として、問題解決力、協調性を求めているとあり、現状は知識・技能の修得中心になっており方向性が見えて来ないのではないかと。

2. プラットフォームを中心とした情報共有など

- ・ 掲載情報の取扱いについて、活用の道標として簡単な説明を付加してはどうか。各委員から、例えば社会や他国を例にとりコメントを出すなどのメッセージを発信してはどうか。
- ・ 実践知を上手く組み合わせる必要があり、文系大学ではどのように教育できるのかをネットを使ったオプション対応を検討できないか。
- ・ ネット上での情報交流会として実施しても良いのではないかと。
- ・ 企業を巻き込む営業力や戦略マネジメントも重要ではないかと、産業界が求めていることなどの情報発信を含めてはどうか。
- ・ 思い切ったことができない、基本的なインフラが無いなどの課題としている大学では、自大学の教員以外に他の教員をシェアするという考え方も入れてはどうか。
- ・ 自大学の特長を活かしながら進め、学生が興味を持てる内容なら自ら学びを進めると考えられるのではないかと。
- ・ 利用できる仕組みとの組合せでシナリオを作成してみることも考えられるが、どれだけ利用されるかは疑問があり、まずは、ワークショップ（情報交流会）の形で意識付けやアイデアの紹介をしてはどうか。

3. 海外教育状況のプラットフォーム掲載について委員から教育状況の整理が提出され、概要が報告された。

- ・ シンガポールでは、文系の立場でサービスなどにどのように活用するか、理系エンジニアの立場での開発・活用などに系統立てて、例えば、データアナリストと統計に 2 コース立ての教育などを行っている。キャンパスも持たない展開も進められている。
- ・ アメリカでは、企業インターンシップや企業連携も多く進められており、メーカーが授業を立ち上げており単位互換に利用できる。社会人向けのプログラムもある。また、MOOC などの利用も紹介することで自大学が実施しなくても良い選択肢が取れるのではないかと。
- ・ フランスでは、高等大学院で企業とのコラボにより、実データの利用でもってないものを学ぶ取組みが行われている。

V. 今後のスケジュール

今回の分科会は、3 月 22 日に開催し、来年度にワークショップ形式での情報交流会を実施する計画について検討することとしている。また、シンガポール、アメリカ、フランスの海外教育状況については、2 月末を目途に、本日の資料の統合や追加情報を整理してまとめを進めることにしている。